

洛北エリア



ハチクに覆われた大宮御土居

天下統一を成し遂げた豊臣秀吉が、長い戦乱で荒れ果てた京の都の都市改造の一環として、外敵の来襲に備える防壁と河川の氾濫から市街地を守る堤防として、多くの経費と労力を費やして、天正19年(1591)に築いた土塁を「御土居」といいます。長く手つかずのまま放置されていた大宮御土居ですが、かつての姿を色濃くとどめているという特徴を活かして整備が進められ、現代に蘇りました。



明神川沿いの土塁と生け垣

室町時代から上賀茂神社の神官の屋敷町として形成されたこの一帯は、江戸時代には神官と農民とが混在して暮らす集落として発展し、「社家町(じやけまち)」とよばれるようになりました。明神川沿いに残る町並みは、1988年に伝統的建造物群保存地区に指定されました。



加茂街道のマツ並木

マツ並木がつくづく加茂街道。対岸に大文字山や比叡山を一望できる河川敷は、朝夕の散歩やランニングなどを楽しむ人々で賑わいます。



堀川通のイチョウ並木

紫明通りから今出川通りにかけて、十数本のイチョウが広い分離帯いっぱいに枝を伸ばしています。秋にはいっせいに色づいて迫力のある黄葉を楽しめます。

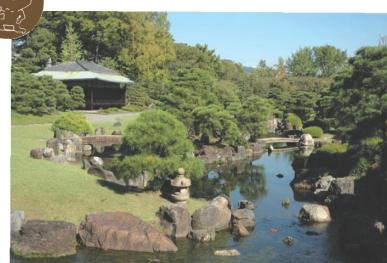


船岡山と船岡山公園

清少納言は「枕草子」で「岡は船岡」と、岡の代表にあげています。その名は舟の形に似ていることにちなんだります。展望広場の標高は11.89mですが、上の標高がすでに約80mもあるので、緩やかな坂道をわずかに上るだけで、南方に広がる市内を一望できるお得な場所。朱雀大路の北延長上に位置し、平安京造営の基準にされたと伝わります。頂上付近の斜面にはあちこちに灰色の岩が顔を覗かせています。岡の北西部は昭和10年に公園として開園しました。起伏を活かした園路や野外ステージなどが設けられています。



洛中エリア



元離宮二条城「清流園」

高瀬川の運河建設などを手がけた角倉了以の庭園の一部と、800個の庭石、日本各地から集められた300個の銅石を用いて、「雄大・明朗・風雅」をモチーフに1965年に作庭されました。東半分は芝生を敷き詰めた洋風庭園。西半分は2棟の建物を含む和風の池泉回遊式山水園。個性的な石の巧みな組合せが見どころです。



堀川通 ヤナギ並木

堀川通の東側今出川から丸太町にかけてつづくヤナギの並木。堀川をはさんで対岸には桜並木。「古今和歌集」で素性法師の歌んだ「みわたせば桜桜をこきませて 都ぞ春の鏡なりける」の情景を摹能できます。



神泉苑
ムクノキの木陰

豊富な湧水と自然の池沼を利用して造営された神泉苑は平安京の禁苑。御池とも呼ばれたこの場所は、現在の御池通の由来となつたと言われています。



京都初の街路樹
烏丸通のユリノキ

明治期の京都三大事業の一環として四条通や烏丸通の拡幅工事が行われ、明治45年には京都初の近代街路樹整備として、烏丸通にユリノキが植えられました。